福井県立美術館 2020

美術館だより

MUSEUM NEWS Vol.165

contents

〈展覧会紹介〉「テレビアニメーション創成期から現在までの50年 ―エイケン制作アニメーションの世界―」 [2～3]
〈イベント報告〉嶺南展　若狭歴史博物館　夏休み親子で楽しむ美術館 「初公開！福井県立美術館ベストコレクション展」 [4]
〈イベント報告〉「菱田春草から横山操まで　―滋賀県立近代美術館所蔵品を中心に―」
コラム「《悠紀・主基地方風俗歌屏風》と福井」 [5]
ミュージアムショップ　グランドオープン
〈展覧会紹介〉「初公開　犬追物図屏風と江戸絵画名品展」 [6～7]
次回展覧会のお知らせ [8]
それゆけ！ブブ広報部隊　其ノ十三
美術館喫茶室ニホ特別メニューのお知らせ
お知らせ

表紙：「テレビアニメーション創成期から現在までの50年　―エイケン制作アニメーションの世界―」より

©小島 功・エイケン　©光プロダクション・エイケン　©平井和正・桑田二郎／TBS　©TBS　©エイケン　©白土三平©エイケン　©長谷川町子美術館　©横山隆一・エイケン
©田河水泡／講談社・エイケン　©佐藤さとる・村上勉／講談社・エイケン　©1976 雁屋哲・エイケン　©フジテレビ・エイケン　©ちばあきお・エイケン　©畑 正憲・エイケン　©美内すずえ／エイケン
©サトウサンペイ・フジテレビ・エイケン　©村上もとか／小学館・エイケン　©みつはし ちかこ・エイケン　©アーネストTシートン・エイケン　©植田まさし／植田プロダクション・エイケン
©うえやまとち／講談社・エイケン　©布浦 翼／講談社・TBS・エイケン　©松竹・TBS・エイケン　©BSフジ・エイケン　©TBS・エイケン　©久里 洋二・TBS・エイケン
©2005 ちばあきお／エイケン・プレイボール製作委員会　©いがらしみきお／竹書房・フジテレビ・エイケン

テレビアニメーション
創成期から現在までの50年
エイケン制作アニメーションの世界

2020 10.9(金)▸11.8(日)

休館日 10月26日(月)

開館時間 午前9時～午後5時(入館は午後4時30分まで)※10月9日(金)は午前10時～

観覧料 一般 1,200円(前売り・団体1,000円)、ペアチケット1,800円(前売りのみ)、高校生 800円(団体600円)、小・中生 500円(団体400円)

※団体は20名以上。※学生の方は学生証の提示が必要です。
※障がい者手帳等をお持ちの方とその介護者1名は半額。※未就学児は無料。
※新型コロナ感染拡大防止等のため、入場制限を行う場合や中止になる場合があります。

●前売券販売　9月9日(水)～10月8日(木)
〈前売券販売所〉福井県立美術館、ベル、パリオ、エルパプレイガイド、武生楽市
〈コンビニ端末〉チケットぴあ(Pコード:685-373)、ローソン(Lコード:52779)、e+(イープラス)

主催 エイケン展福井実行委員会(福井県立美術館、福井テレビ)

後援 福井新聞社、石川テレビ、富山テレビ

企画協力 東映株式会社

特別協力 長谷川町子美術館、フジテレビジョン、エイケン

協力 コオプロ、光プロダクション、TBS、小学館集英社プロダクション、横山事務所、講談社、男組、ちばあきおプロダクション、ムツプロ、美内すずえ事務所、小学館、スタジオポケット、植田プロダクション、松竹、アイエムオー、竹書房(制作年順)

©小島 功・エイケン　©光プロダクション・エイケン　©平井和正・桑田二郎／TBS　©TBS　©エイケン　©白土三平©エイケン　©長谷川町子美術館　©横山隆一・エイケン
©田河水泡／講談社・エイケン　©佐藤さとる・村上勉／講談社・エイケン　©1976 雁屋哲・エイケン　©フジテレビ・エイケン　©ちばあきお・エイケン　©畑 正憲・エイケン　©美内すずえ／エイケン
©サトウサンペイ・フジテレビ・エイケン　©村上もとか／小学館・エイケン　©みつはし ちかこ・エイケン　©アーネストTシートン・エイケン　©植田まさし／植田プロダクション・エイケン　©うえやまとち／講談社・エイケン
©布浦 翼／講談社・TBS・エイケン　©松竹・TBS・エイケン　©BSフジ・エイケン　©TBS・エイケン　©久里 洋二・TBS・エイケン　©2005 ちばあきお／エイケン・プレイボール製作委員会　©いがらしみきお／竹書房・フジテレビ・エイケン

①《鉄人28号》

②《エイトマン》

③《サスケ》

④《忍風カムイ外伝》

⑤《のらくろ》

⑥《キャプテン》

⑦《ガラスの仮面》

⑧《コボちゃん》

日本のアニメ創成期から子ども達が憧れたヒーローアニメ「鉄人28号」「エイトマン」「宇宙少年ソラン」「サスケ」「忍風カムイ外伝」を制作してきたアニメスタジオ『エイケン』。
1970年代には「のらくろ」「冒険コロボックル」等を、80年代には「キャプテン」「ガラスの仮面」等を、90年代には「クッキングパパ」「いじわるばあさん」等を、2000年代以降は「プレイボール」「ぼのぼの」等の名作を世に送り出してきました。そして1969年からは世界で最も長く放送されているテレビアニメ番組「サザエさん」の制作を現在に至るまで50年間続けています。

本展では、クリエイティブ集団エイケンのアニメ作品の中から、「サザエさん」を軸に、原画・セル画等の貴重な資料約300点を展示。テレビアニメーション創成期から現在までの50年間を、エイケン制作のアニメーション作品を通じて振り返ります。

⑨《クッキングパパ》

⑩《ぼのぼの》

⑪《サザエさん》

① © 光プロダクション・エイケン
② © 平井和正・桑田二郎／ TBS
③ © 白土三平 © エイケン
④ © 白土三平 © エイケン
⑤ © 田河水泡／講談社・エイケン
⑥ © ちばあきお・エイケン
⑦ © 美内すずえ／エイケン
⑧ © 植田まさし／植田プロダクション・エイケン
⑨ © うえやまとち／講談社・エイケン
⑩ © いがらしみきお／竹書房・フジテレビ・エイケン
⑪ © 長谷川町子美術館

関連企画

「見どころ解説会」 **会期中土曜日 午前10時30分～約15分間**
講師／当館総括学芸員 西村直樹　<当館講堂>　参加無料　事前申込不要(当日直接会場へ)
※新型コロナ感染拡大防止等のため、入場制限を行う場合や中止になる場合があります。
※上記開催日以外にも追加開催する場合があります。※詳細はHPをご覧ください。

「ドレスコードデー」 **会期中土曜日・日曜日・祝日**
エイケン制作アニメーション「ガラスの仮面」にちなんで、“紫色”の衣服を身につけてご来館ください。(例：紫色のスカーフを着用)
※利用当日の割引特典（利用当日の観覧料より200円引、小・中生は100円引）があります。
利用当日発券窓口にて観覧券を購入する際に申し出てください。※他の割引との併用はできません。

「親子三世代デー」 **会期中毎日　親子三世代でご来館ください。**
親子三世代でエイケンアニメーション50年の歴史に触れ、それぞれの時代を知ろう。
※利用当日の割引特典（利用当日の観覧料より200円引、小・中生は100円引）があります。
利用当日発券窓口にて観覧券を購入する際に申し出てください。※他の割引との併用はできません。

《イベント報告》

親子で楽しむ美術館

嶺南 初公開!! 福井県立美術館ベストコレクション展 7.31(金)›8.31(月)

7月31日(金)から8月31日(月)まで、当館コレクションから厳選したベストラインナップを若狭歴史博物館で初公開しました。国内外の著名作家の絵や版画、工芸のほか、現代美術など、多分野の作品をご紹介しました。アンケートからは、「嶺南で美術展が見られるのはよかった」「横山大観など高名な人物の作品が見られてよかった」などの声がありました。

会期中は、毎朝先着10名への来館記念プレゼントや親子で楽しむクイズラリー、解説会、子ども向けワークショップを行いました。

《関連イベント》

◉親子で楽しむ解説会

[日時] 7月31日(金)、8月15日(土)、22日(土)、29日(土)
各日14:00〜15:00、
8月8日(土) 13:00〜14:00
[会場] 2階展示室
[参加人数] 96名

ミニ屏風作りの風景

アートな和紙バッグ作りの風景

◉キッズ向けワークショップ

1. 名作《落葉》のミニ屏風を作ろう!
[日時] 8月1日(土) 14:00〜15:00
[会場] 1階講堂
[講師] 内藤秀信（ごじら工房主宰）
[参加人数] 13名

2. アートな和紙バックを作ろう!
[日時] 8月8日(土) 14:00〜15:00
[会場] 1階講堂
[講師] 内藤秀信（ごじら工房主宰）
[参加人数] 15名

3. マッキー先生の菱田春草《落葉》ワークショップ
[日時] 8月9日(日) 14:00〜15:00
[会場] 1階講堂ほか
[講師] 牧井正人（あわら市細呂木小学校校長）
[参加人数] 26名

《イベント報告》

菱田春草から横山操まで

—滋賀県立近代美術館所蔵品を中心に—

7/17(金)–9/22(火・祝)

滋賀県立近代美術館と当館の所蔵品によるコレクション展にて近代から現代に渡る日本画の潮流をご紹介しました。

朦朧体にはじまり菱田春草《落葉》を生み出した初期日本美術院の様相、再興日本美術院の画家たちの多様な絵画研究を速水御舟《菊花図》や安田靫彦《卑弥呼》によって追いました。

京都画壇からは幸野楳嶺《群魚図》、冨田溪仙《越国之紙漉圖》などと共に滋賀出身の山元春挙が主基地方を担当し、越前和紙が料紙に使われた昭和度の《悠紀・主基地方風俗歌屏風》に焦点を当て、両館の特色を出した企画を展観しました。

また、ご好評につき会期を延長したことで、色彩の美しい小林古径《竹取物語　難破》、圧巻の迫力の横山操の作品など両館の名品を余すことなくご覧いただけました。

《関連イベント》

◉鑑賞会
[開催日] 7月18日(土)
[講師] 牧井正人氏
[参加人数] 23名

◉講演会
[開催日] 7月25日(土)
[講師] 大原由佳子氏
[参加人数] 45名

◉キッズミュージアム
[開催日] 8月1日(土)
[講師] 扇千花氏
[参加人数] 15名

◉演奏会
[開催日] 8月16日(日)
[演者] フルート：桑原恵理氏
ピアノ：松田佳恵氏
[参加人数] 46名

◉ナイトツアー
[日時] 8月22日(土)
[参加人数] 18名

◉解説会
[開催日] 7/23、8/10、9/5、9/12、9/19
[参加人数] 56名

◉トークサロン
[開催日] 9月13日(日)
[参加人数] 10名

演奏会「夏のなごみコンサート」(8/16) より

コラム column

《悠紀(ゆき)・主基(すき)地方風俗歌屏風(ちほうふうぞくうたびょうぶ)》と福井

学芸員　原田礼帆

《悠紀・主基地方風俗歌屏風》は、天皇陛下のお代替わりの儀式「大嘗祭」にて用いられる六曲二双屏風である。全国から選定された悠紀地方と主基地方の名勝が四季の風景と人々の営みと共に描かれ、詠進された和歌が貼付けられる。昭和度には悠紀地方（滋賀県）を川合玉堂（1873〜1957）、主基地方（福岡県）を山元春挙（1872〜1933）が描き、料紙には福井の越前和紙が使用された。両画家は料紙が内定した時点より紙漉職人・岩野平三郎（1878〜1960）に上京を促し、紙質についての相談を行ったことが残された書簡より明らかとなっている。

川合玉堂は「やはり鳥の子風にて薄手のものよろしく最近京都にて山元氏とも打ち合わせいたし候ことに御座候」（川合玉堂「御大礼屏風料紙内定の通知」昭和3年（1928）2月8日）「要領は先日の見本のうち鳥の子の一番薄き分にて今少し紙面の滑らかならざるを好み候」（川合玉堂「御大礼屏風料紙について」昭和3年（1928）2月23日）と、「鳥の子紙」という和紙に近い薄手のもの、そして紙面の滑らかでないものがよいと依頼している。墨筆の繊細緻密な筆致を留めるためには絹のように表面が滑らかな料紙が求められるが、このような料紙に粒子状の岩絵具を厚塗りで用いると紙面が研磨されてしまうため濃彩の表現が難しい。「滑らかでない紙面」は、岩絵具をふんだんに用いた豪華な屏風ならではの要求であると言える。この時開発された和紙は「白鳳紙」と命名され、現在でもその名が残されている。屏風を制作した両画家が料紙製作の記念作品を岩野平三郎へ贈ったことからも国家的大事業に際し、画家と職人が共に知見を出し合い新しい芸術を作り上げていった背景を読み取ることができる。

《参考文献》
『史料繪絹から畫紙へ—岩野家所蔵近代日本畫家・學者等の書簡集—』
（岩野家所蔵書簡集刊行会、2001年）
中野慎之「昭和大嘗会屏風の史的位置」（『京都美学美術史学』（11）、119-156頁、2012年）

屏風制作の際の余紙余彩を用いて描いた
川合玉堂《御屏風絵》昭和3〜4年（1928〜29）　福井県立美術館蔵

福井県立美術館 MUSEUM SHOP

Open 2020 10/9 fri.

所蔵品を使用した額装や
オリジナルドリップコーヒー、
ポストカードなどオリジナルアイテムが揃っています

越前焼、越前和紙、越前漆器や
ガラスなど日々の暮らしで使える
アートがいっぱいです

身近に持ち帰れるART探し

福井県ゆかりの作家をメインに
美術工芸品やクラフトなどのアイテムを
セレクトしたショップです。
美術館に来た際に立ち寄る楽しみはもちろん、
いつでもふわっと立ち寄りたくなるような
ショップを目指しています。

※ミュージアムショップは無料エリアです。
※観覧チケットがなくてもお買い物頂けます。

INFORMATION

福井県立美術館 MUSEUM SHOP
営業時間/AM9:00〜PM5:00
※営業時間、休みは福井県立美術館に準じます

netshop・instagramはコチラから
netshop　instagram

ふたつの屏風、世紀を越えた奇跡の再会！

初公開 犬追物図屏風と江戸絵画名品展

武士の技、とくとご覧あれ!!

尼崎市立歴史博物館蔵

2020 11.23(月祝)-12.20(日)

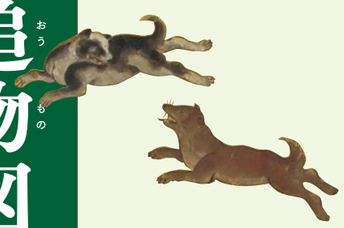
会期中無休

【開館時間】午前9時～午後5時（入館は午後4時30分まで）
【料金】一般・大学生500円、高校生200円、中小生100円（20名以上の団体は2割引）
※学生の方は学生証の提示が必要です。※障がい者手帳等をお持ちの方とその介護者1名は半額。

犬追物は疾走する犬を馬上から射るもので、弓術と馬術の鍛錬を兼ねた武家の競技です。流鏑馬、笠懸とともに「馬上三物」と重要視され、鎌倉時代から室町時代にかけて盛んに行われました。

当館では昨年度、その様子を描いた犬追物図を新たに収集しました。長らく県内に秘蔵され、ほとんど公開されることのなかった17世紀初めに描かれた屏風絵で、桜咲く馬場での犬追物とそれを見物する人々を、金地の画面に描いた華やかな作品です。しかも調査の過程で、セットとして制作されたもうひとつの屏風が現存することも明らかとなりました。

本展では、この屏風を収集後初めて一般に公開します。そして離れ離れになった対の屏風の再会をはたします。あわせて県内所蔵の関連作品や、岩佐又兵衛、葛飾北斎など館蔵品を中心とする江戸絵画の名品も展示、多彩な作品と表現をご覧いただきます。



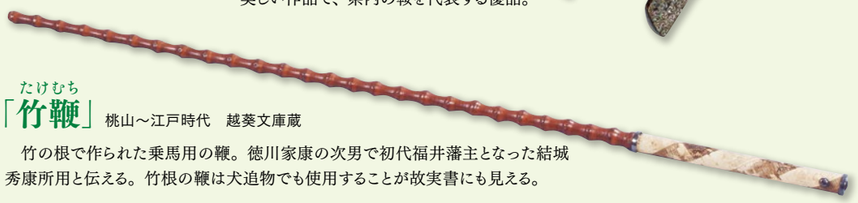
福井県指定文化財

「巴散文螺鈿鞍」

松本正則作

慶長16年（1611）　越前市・大塩八幡宮蔵

福井藩家老の本多富正奉納と伝える鞍。鮑などの貝殻を文様に切り出し、黒漆塗りの地に嵌め込む「螺鈿」の技法が用いられている。巴文が玉虫色に光り輝く美しい作品で、県内の鞍を代表する優品。



「竹鞭」

桃山～江戸時代　越葵文庫蔵

竹の根で作られた乗馬用の鞭。徳川家康の次男で初代福井藩主となった結城秀康所用と伝える。竹根の鞭は犬追物でも使用することが故実書にも見える。

「犬追物図屏風」作者不詳　桃山～江戸時代（17世紀）

福井県立美術館蔵

「杣人春秋山水図」葛飾北斎筆

文化8年（1811）頃　福井県立美術館蔵

帰路につく杣人（木こり）の親子と春秋の山水図を組み合わせた肉筆画の作品。『椿説弓張月』など読本挿絵を精力的に描いていた北斎50代前半の作。春景の幻想的な山水構成や精緻な細部描写に、作者の特徴が良く現れている。

福井県指定文化財

「和漢故事説話図 須磨」

岩佐又兵衛筆

江戸時代（17世紀）　福井県立美術館蔵

源氏物語のうち、須磨に退居した光源氏が暴風雨に遭う「須磨」の場面を描く。屋内より外を眺める場面設定は又兵衛のオリジナル。福井時代、50代頃の作品。岡山藩主池田家に伝来した。

関連イベント

◉講演会（聴講無料・先着40名）
11月29日(日)　午後2時～
［会場］当館講堂
［講師］小笠原 清忠氏（弓馬術礼法小笠原流 三十一世宗家）
演題「小笠原流弓馬術の世界」

◉学芸員によるギャラリートーク（要観覧券・先着20名）
12月5日(土)、12日(土)　いずれも午後2時～
［会場］展示会場

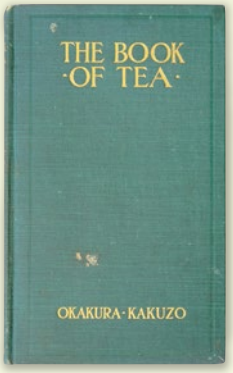
※新型コロナウイルス感染拡大防止のため、記載内容を変更する場合があります。またご来館の際は、マスク着用および手指消毒など感染防止にご協力ください。

次回展覧会のお知らせ

岡倉天心と茶道

[会期] 令和３年１月３日(日)～２月14日(日)

岡倉天心が描いた『茶の本』の世界を味わいながら、四季折々の絵画や茶道関係の美術品を通して「美を崇拝することを根底とする儀式」(『茶の本』) である茶道を体感します。



左：岡倉天心「茶の本」ニューヨーク初版本 1906年（明治39）
中：北大路魯山人「竹形花入」20世紀
右：河井寛次郎「三色釉水指」1962年(昭和37)頃

新春展 アートのなかの動物たち

[会期] 令和３年１月３日(日)～１月17日(日)

来年の干支は「牛」ということで、牛を描いた作品、そして身近な動物、想像上の動物たちの登場する作品にて新春を盛り上げます。

横山大観「老君出関」1911年（明治44）
福井県立美術館蔵

絵・文　ささきみほ

エイケン展スペシャルメニュー

「のらこあらショコラ」

花椒の独特な香りのガトーショコラに、小豆を忍ばせて焼き上げました。相性抜群のバニラアイスを添えたモノトーンな組み合わせも、「のらくろ」ならぬ「のらこあら」でのんびり和み感。

Contact

美術館喫茶室 ニホ

[open]　9:00～19:00
[closed] 月曜日

tel: 0776-43-0310 ＊無料Wi-fi＊
address:
〒910-0017 福井市文京3丁目16-1
福井県立美術館　正面左手

＊美術館が休館でも、
月曜日以外は営業しております。

お知らせ

◎2020年10月～2021年1月の休館日について

館内メンテナンス、展示替え等のため、下記の日程は休館とさせていただきますのでご了承ください。

10月1日(木)～8日(木)、26日(月)、11月9日(月)～19日(木)、12月21日(月)～1月2日(土)

美術館だより第165号

本誌は再生紙を使用しています。

編 集／発 行：福井県立美術館　〒910-0017 福井市文京３丁目16-1　tel.0776-25-0452　印 刷：河和田屋印刷株式会社　発行日：令和２年10月12日　20.10.20220